

## 3.計画のめざすべき姿・基本目標

### 3-1 計画のめざすべき姿

「自転車」は、通勤、通学、買物、観光、スポーツ等生活のさまざまなシーンにおいて、北区の移動を支える身近で重要な交通手段です。

東京都自転車活用推進計画においては、「だれもが自転車を安全・安心・快適に利用できる環境づくり」をめざすべき将来像として掲げています。また、「北区都市計画マスタープラン 2020」においては、分野別都市づくりの方針として、おでかけ環境の目標を『だれもが行きたいところに快適に行けるまち』と掲げています。

区民の暮らしに、自転車の適切な活用を浸透させるためには、生活の中で手軽に自転車を利用できるおでかけ環境を整えることが大切です。そのために、交通安全を前提としながら、快適な自転車利用環境を実現するための取組みをさまざまな視点から進めていきます。

これらを踏まえ、北区が本計画においてめざすべき将来像を『だれもが安全・安心・快適に自転車でおでかけできるまち』とします。

基本構想における  
基本目標3（案）

安全・安心で快適に暮らし  
続けられる人と自然が調和したまち

寄与するために

本計画で  
目指す将来像

だれもが安全・安心・快適に自転車でおでかけできるまち

本計画の  
目的

健康  
維持・増進

移動  
利便性向上

環境  
負荷低減

地域  
活性化

実現するために

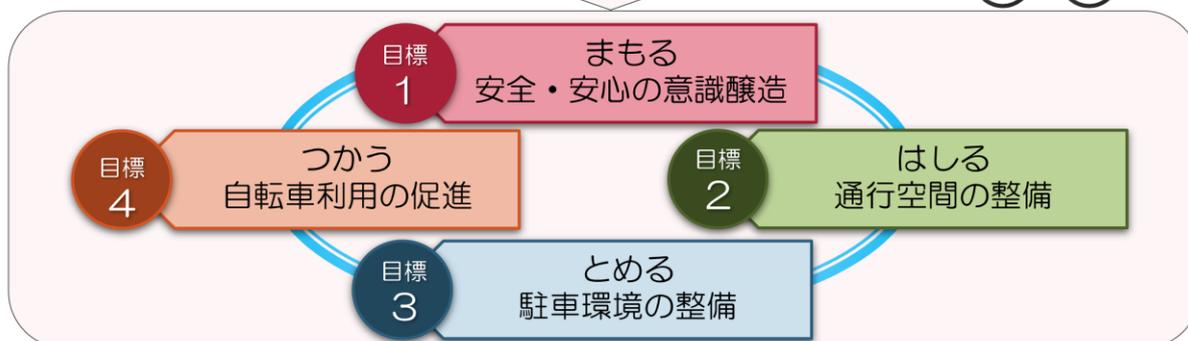


図 3-1 本計画でめざす将来像

## 北区自転車活用推進計画における将来像のイメージ図



※本イメージ図は実在する都市を表現したものではありません。

## 3-2 基本目標

自転車活用推進法の理念や国の第2次自転車活用推進計画の4つの施策目標との整合を考慮しつつ、北区のめざすべき将来像や自転車利用を取り巻く現状と課題の整理結果を踏まえ、基本目標を以下のとおり掲げ、自転車の活用推進に関わる取組みを推進します。

だれもが安全・安心・快適に自転車でおでかけできるまち

実現するために

目標

1

### 安全・安心（まもる）

自転車を安全に利用するために、交通ルール・マナーの意識を高める

自転車利用者だけでなく、道路を利用するだれもが安全に安心して快適に通行できるおでかけ環境を創出するため、自転車利用者の交通ルール遵守やマナー向上に関する啓発など安全に自転車を利用する取組みを推進します。

目標

2

### 通行空間（はしる）

安全で快適に移動できる自転車通行空間をつくる

目的地まで、自転車で快適におでかけしやすい環境とするために、安全で快適に通行できる自転車通行空間の計画的な整備・維持管理を推進します。また、適切に自転車通行空間を利用してもらうため、路上駐車への対策を推進します。

目標

3

### 駐車環境（とめる）

適切に自転車を駐車できる環境をつくる

多様化する自転車や、通勤、買物、観光等のさまざまな自転車によるおでかけニーズに対応した自転車駐車場の環境整備を推進します。また、放置自転車対策を引き続き行います。

目標

4

### 自転車の利用（つかう）

自転車を利用できる機会を増やし、おでかけに活かす・おでかけを増やす

いつでもだれでも自転車で気軽に移動できる機会を増やし、まちなかへのおでかけにつながるような自転車の活用、また、自転車通勤や観光における自転車利用が増えるような環境づくりを推進します。

コラム

自転車のメリット

自転車は、だれもが手軽に利用できる交通手段あり、二酸化炭素を排出しない地球にやさしい交通手段です。日常生活の中で自転車利用を取り入れていくことにより、地球環境に優しいだけでなく、「こころ」「からだの健康」「経済性」等の面でのメリットも期待できます。

① 市民のメリット

●移動時間の短縮

自転車は約 500m~5km 弱の移動において、最も早く移動ができます。

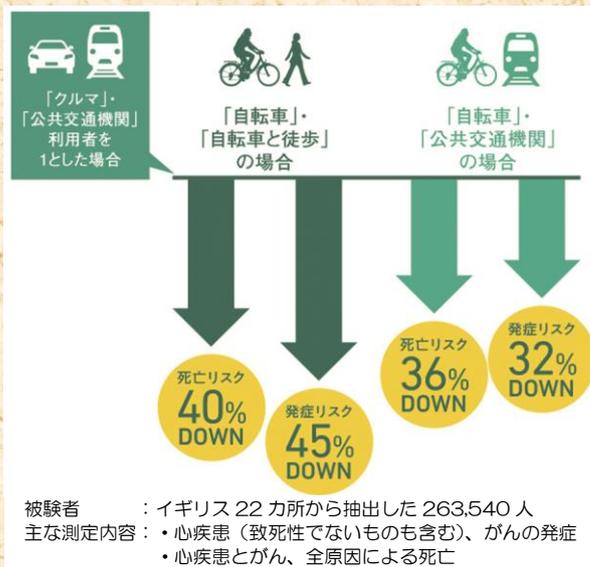
●健康の維持・増進

自転車利用による運動は運動効率が高く、体重・体脂肪の減少、数値の改善、心臓疾患やがんの発症・死亡リスクの低下につながります。

●医療費の削減

生活習慣病の改善などによる医療費の削減に期待できます。

がんによる死亡/発症リスクの減少  
出典：株式会社シマノ Health Data File



② 従業員のメリット

●経費の削減

移動にかかる費用が少なくなるため、通勤手当や固定経費の削減につながります。

●生産性の向上

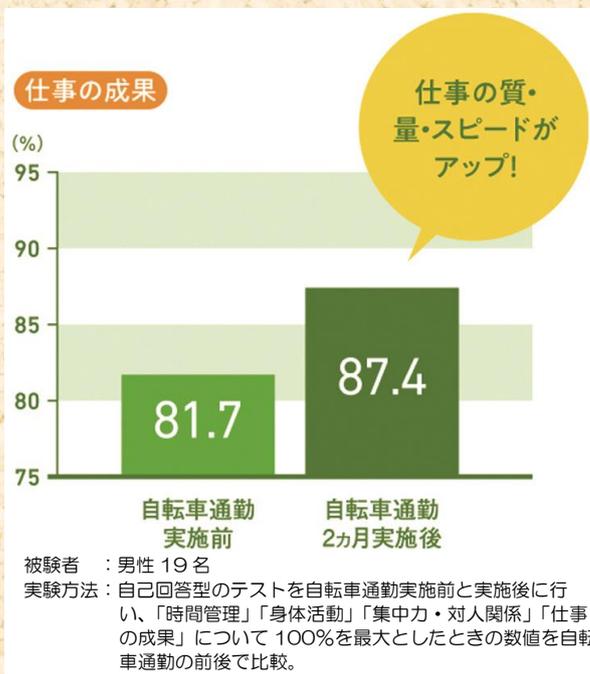
従業員の時間管理や身体活動、集中力や感情コントロールの向上や仕事の質・スピードアップにもつながります。

●事業者のイメージアップ

環境にやさしい等のイメージアップや認知度の拡大といった社会的評価の向上つながることが期待できます。

●事故リスクの低減

自転車事故のリスクは車に比べて低く、従業員の通勤時の事故リスク低減につながります。



労働生産性の変化  
出典：株式会社シマノ Health Data File

③ 地域のメリット

●渋滞の緩和

自転車を利用し、車の利用量を減らすことは渋滞の緩和につながります。

●環境負荷の低減

排出量がゼロの自転車は他の乗り物に比べて地球環境にやさしい。

●交流人口や消費の拡大

自転車利用者は買い物回数や金額が多く、地域での消費活動を促すことが期待できます。